

アートを通じた商店街の賑わいの創出

(商店街地域の空き家・空き店舗等の調査・研究。有効的な利活用。)

指導教員 金沢美術工芸大学 美術工芸学部 教授 真鍋淳朗 准教授 高橋治希
准教授 芝山昌也 教授 安島諭 准教授 池田晶一 講師 稲垣健志

参加学生 伊藤真理奈・中村清夏・山本いちご・沖田愛有美・中桐聡美・山岸耕輔
中島大河・松村れん・宇都宮未来・山崎愛美・石田香・内田望美・尾崎太亮
白木裕也・成子夏芽・蔡承捷

1. 調査研究成果要約

珠洲市飯田町商店街にある古民家を調査・研究した。2017年9月から珠洲市で開催される奥能登国際芸術祭と大学や地域住民が連携していくために必要なセンター構想について考察し、奥能登国際芸術祭に金沢美大として参加するためのプランシートを制作した。飯田町燈籠山祭りとヨバレへ参加し、日本文化の形成期から現代に至る歴史を調査して、環日本海のアートネットワーク構築を視野に入れた多文化共生の交流拠点を創る研究を行った。

2. 調査研究の目的

珠洲市飯田町商店街には30軒以上の空き店舗や空き民家があり、その中心となる1軒の古民家を交流拠点として活用する調査を行い、金沢美術工芸大学の美術・デザイン・工芸・理論を傾注して古民家をリノベーションし、その過程を通じて教育・研究・地域貢献のミッションを果たした。奥能登国際芸術祭と連携した事業により、若者達と地域との交流の機会が増え、賑わい創出やUIターンの受け皿となる状況づくりに貢献することが目的であった。

3. 調査研究の内容

調査研究活動を行う上で、学生によるフィールド・リサーチ班、作品制作班、ヨバレ調査班、博物館構想班の4チームをつくり、各チームに担当教員が配置され定期的に学内でミーティングを行った。各チームの研究方針に従って現地調査を行い、地域の専門家や地域住民との対話を重ね、資料館や図書館での資料収集も行った。

5月3日、4日の二日間に亘り珠洲市飯田町のフィールド・リサーチを行った。金沢美術工芸大学の学生11名、教員4名が参加した。飯田町にある31軒の空き民家、空き店舗、旧駅舎、トンネルなどを調査し、今後、どこをどのように活用してプロジェクトを行っていくか検討を開始した。7月20日、21日の二日間に亘り珠洲市飯田町で開催された燈籠山祭りに参加した。[図1]

金沢美術工芸大学の学生5名、教員3名が参加した。山車を地域住民と共に引き、その後ヨバレ[図2]を体験して地域の風土・習慣を体験して交流を深め、今後の調査研究の方針が確認された。



[図1] 7月20日に燈籠山祭りへ参加



[図2] 7月20日のヨバレに出された料理

9月30日、10月1日、2日の三日間に亘り珠洲市飯田町の古民家の調査を開始した。金沢美術工芸大学の学生12名、教員4名が参加した。現在、空き家となっている古民家は、飯田町にある明治期に建築された文化財登録に値する建物で、今後どのように有効活用が出来るか確認するため、まず掃除と片付けから開始した。今回は、調査研究成果の展示方法、邸内の屋内空間を作品化する計画、学生によるヨバレの実施計画などが検討された。



古民家の外観



入口の吹き抜け



蔵の門



母屋



釘隠し



中庭



蔵の入口

4. 調査研究の成果

12月17日に珠洲商工会議所会館において、珠洲市企画財政課長兼奥能登国際芸術祭実行委員会事務局長、珠洲市商工会議所副会頭兼飯田町区長会長、飯田町商店街協同組合理事長に対して、これまでの調査・研究の成果を報告した。活発な質疑応答が交わされ今年度中に行う予定の住民説明会の日程が確認された。金沢美術工芸大学の学生8名、教員3名が参加した。子供関連のワークショップや「あえのこと」や「稲作」のワークショップ、燈籠山祭りや「ヨバレ」の参加に関して議論が交わされ、地域住民から貴重なアドバイスがあった。また、学生からは率直に「飯田町の人にとって地元はどんな土地か。」と質問があり、地域住民から真摯な返答があり交流の度合いが更に深まった。調査研究の成果が、奥能登国際芸術祭において金沢美術工芸大学がどのようなプロジェクトを地域住民と連携して行うかがまとめられたプランシートに反映された。

5. 来年度の調査研究計画

来年度の9月3日から開催される「奥能登国際芸術祭 2017」に金沢美術工芸大学と地域住民が連携して行う調査・研究とプロジェクトがまとめられたプランシートの主な内容を記載する。

金沢美術工芸大学 珠洲アートプロジェクトチーム[スズプロ]

－ 静かな海流をめぐって －

●飯田町地区

奥能登曼荼羅

古民家の縦8.9m×横5.5m×高さ5.6mの大型の蔵の壁面に奥能登に存在する森羅万象を中心とした環日本海および東アジアを俯瞰する曼荼羅図を描写し、奥能登に受け継がれている精神的本質を表出させる空間表現を行う。



いえの木

古民家の別の蔵の中に残された大量のモノを樹木状に組み上げて、時間の蓄積とこの地域の豊かさと厳しさを表現する巨木を制作する。天と地をモノで作られた樹木でつなぎ、その中に入ることで、自身を悠久の時の流れに同化させる。



●飯田町＋上黒丸地区

飯田のまち・上黒丸のまち横断幕

地域のサイン計画として、飯田の南町、西大町、鍛冶町、栄町、南濱町、港町、今町、吾妻町の各町紋と上黒丸、金沢美術工芸大学珠洲アートプロジェクトチーム[スズプロ]のロゴマークをモチーフとした大きな横断幕を染め、古民家の前や各町の標識として掲示する。



こめのこと

世界無形文化遺産である「あえのこと」について、実際に稲作を行いながら、その文化的背景等を含めて体感的に学び、ワークショップとして発表する。

「あえのこと」の伝承地区である上黒丸地区の農家から稲作についての指導を受け、上黒丸地区と飯田（古民家の中庭）の2カ所で稲作と、「あえのこと」についての理解を深める。田植えと収穫は、本学の全学募集のワークショップとし、ゴールデンウィーク中と芸術祭期間中に行う。ワークショップは、擬人化されながらも視覚できない「あえのこと」の神様の姿に焦点をあてた活動を地域と珠洲市民と一緒にやる。



6. 調査研究に対する地域からの評価

地域に入り込んだ調査・研究が行われ、空き古民家が利活用された交流拠点ができて人の往来が増加し、アートによる飯田町商店街地域の賑わいの創出と活性化が期待できる。飯田町商店街としても奥能登国際芸術祭での盛り上がりに乗りたいと考えており、金沢美術工芸大学と連携して上記のプランシートにあるプロジェクトを共に進めていく予定である。